



▲機敏な動きで正確な操作を行う選手たち

小型ポンプ操法で速さと正確性を競う

県消防協会天草市支部消防操法大会

6月10日、「第4回熊本県消防協会天草市支部消防操法大会」が、本渡町広瀬の大矢崎緑地公園で行われました。同大会には、市内10方面隊の消防団員がそれぞれ1チーム5人（補助員含む）で、あらかじめ設置された火点へ小型ポンプを始動し放水。操作開始から火点が倒れるまでの速さや操作の正確さを競いました。

●大会結果（敬称略）＝【団体の部】優勝・牛深方面隊、準優勝・有明方面隊、3位・本渡方面隊（牛深・有明は8月26日㊿、同公園で開かれる県大会へ出場）。【個人優秀選手】指揮者：岸谷京（牛深）、1番員：金子良二（五和）、2番員：佐竹寛寿（牛深）、3番員：川口正紘（有明）。

天草の災害の歴史を知ろう

本渡歴史民俗資料館企画展を開催中

7月16日㊿まで、今釜新町にある本渡歴史民俗資料館で、『本渡歴史民俗資料館企画展「天草災害の歴史展」』が開催されています。これは、同館が初めて実施したものです。

同展では、220年前に起きた雲仙大津波による、天草での被害を詳細に記した“温泉岳噴火津波絵図”をはじめ、昭和47年7月6日に起きた集中豪雨（通称＝7・6水害）の被害写真などのパネル約50点のほか、市職員が撮影した東日本大震災の被災地の写真を展示。6月17日には、訪れた親子連れが展示物を熱心に見入っていました。



▲“温泉岳噴火津波絵図”を見る親子連れ



◀「四代・金焼」を手にする
松岡政幸・同協議会会長

オリジナルいも焼酎販売中！

「四代・金焼」

下浦町の旧金焼小学校校区内の住民で組織する、金焼校区活性化推進協議会では、オリジナルのいも焼酎「四代・金焼」を企画し、6月1日から地元の商店で販売しています。これは同協議会が、地域活性化を目的として、地元でとれたサツマイモを原料にして平成20年から企画しているもので、今回で4代目。球磨地域の酒造会社が製造し、黒麹仕込みでまろやかな味に仕上がっています。価格は900ml入りで1,200円。購入方法などの詳細は、同協議会の渡邊さん☎㊿7456へ。



▲とれたヒラメを手にする参加者

目ざせ大漁！

大浦地区振興会「ひと網オーナー制度」始まる
有明町の大浦地区振興会では5月から、大浦港の沖合いで行われている「定置網（つぼ網）漁」の体験ができ、とれた魚介類はすべて持ち帰ることができる「ひと網オーナー制度」を始めました。

5月28日には、事前に申し込んだ県内や福岡県に住むオーナーとその家族など3組・10人が参加して漁を実施。網には3kgのヒラメをはじめ、コノシロ、アオリイカなどがかかっており、地元の漁師も「これまでにない漁獲量」と話すほどの大漁で、参加者も大満足の様子でした。

なお、料金は漁1回につき10,000円で、1日に2組まで（1組当たり5人を上限）。7月29日㊿まで申し込みを受け付けています。申込方法などの詳細は、大浦地区振興会事務局（大浦公民館内）☎㊿0548へお尋ねください。

個性あふれる陶器をつくる

倉岳小学校・作陶体験教室

6月4日、倉岳小学校で「作陶体験教室」が行われ、6年生の児童28人が参加しました。この日児童たちは、桧宇土町で焼物づくりをしている井上由香里さんから、天草陶石の特徴や作り方などを学んだ後、陶器づくりに挑戦。児童たちは、事前に作成した設計図を確認しながら、茶わんや置物など、思いおもしろい作品づくりに取り組んでいました。なお、作品は井上さんの工房で焼かれた後、児童たちが色づけを行い、11月に開かれる天草大陶磁器展に出展される予定です。



▲熱心に形をつくる児童

大きく育ちますように！

栖本町内の老人会会員がカライモの苗を植え付け

6月9日、栖本町内の老人会の会員27人が、浜地区に整備している「生き生き健康農園」でカライモの苗を植え付けました。同農園は、栖本地区振興会が設置しているもの。この日参加者は、10アールの農地に約2,000本の苗を手ぎわよく植え付けていました。

なお、収穫は10月ごろで、町内の保育園児がイモ掘りをした後おやつとして食べるほか、小・中学校の給食の材料にもなる予定です。



▲植え付けを行う参加者